

ものにして、資本家の労働者の人格尊重の氣風の振作は協調會に於ける重要なる事業である

三、資本家の自覺は國家制度の改善及び労働團體の堅實なる發展に待つべきものにして、此の方面に協調會は全力を擧げて努力するに成否の程は未知數である

四、階級闘争は否認する、我等は全人類愛の理想の下に平和に労働者の地位の向上を計り度し

第三項 労働者講習會の開設

然し、斯かる當事者達の努力に土拘られ、當時の状況に於ては協調會運動は労働者側よりは容易に受け入れられずばならぬかつた。労働運動者達は本會と手を握ること

は、資本家との妥協であり、階級的裏切りであるかの如く考へたのであつた。ここに當時の本會幹部の苦心は存した。或は労働者教育に、或は爭議調停を通じて爲された労働兩者の啓蒙に、それは一切の困難を切り開いて行かなければならなかつたのであつた。斯かる事情の下に於て、先づ大衆的な啓蒙運動への一つの礎石として試みられたものは「労働者講習會」であつた。本講習會は「労働兩者とて眞に人生の意義を得せしめ、社會一體の信念の下に人類相愛の大義に目醒めしめ、人格の獨立を確認して相互に之を尊重するに至らしむること」は労働問題の解決に對する重要なる根本的方策の一であるとの趣旨の下に、労働者の向上を計り社會協調の本義を自覺せしめると共に、社會問題に關する健全なる知識を